

第7回講義 (下線は数式・記号, 二重下線は文章が入る)

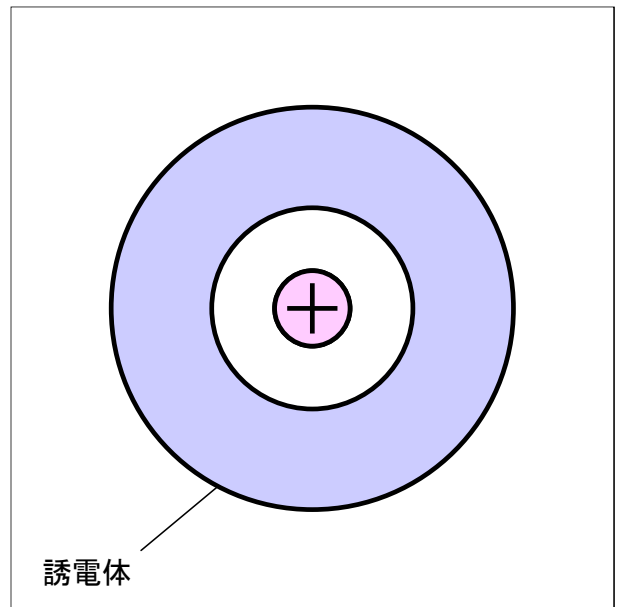
➤ 分極電荷を含んだガウスの法則, $\epsilon_0 \text{div} \mathbf{E} = \rho + \rho_{\text{pol}}$ を, 上の関係を使えば ρ_{pol} を含まない形で表せる. それは $\epsilon_0 \text{div} \mathbf{E} = \rho + \underline{\hspace{2cm}}$ という形. これを, $\text{div} \mathbf{E}$ で括れば, $\epsilon_0 (1 + \chi_e) \text{div} \mathbf{E} = \rho$ と表すことができる.

➤ $\epsilon_0 (1 + \chi_e)$ なる量は, 真空の誘電率と同じ次元で, 誘電体中での $\text{div} \mathbf{E}$ と ρ の比例定数である. ならばこれを「物質の誘電率」と定義し, 記号 ϵ で表そう. つまり, $\epsilon = \underline{\hspace{2cm}}$.

➤ ここで, $\mathbf{D} = \epsilon \mathbf{E}$ なる物理量を再び「電束密度」と定義する. 結局, 微分形のガウスの法則は誘電体があっても $\underline{\hspace{2cm}}$ と書ける.

➤ 電束密度のガウスの法則を積分形で書くと $\underline{\hspace{4cm}}$ となる.

➤ 電気力線を \mathbf{E} を結んだ線, 電束線を \mathbf{D} を結んだ線とする. $\epsilon_r = 2$ として, 電気力線と電束線の様子を描画すると右図のようになる.



➤ ϵ_0 を ϵ と置き換えた形のガウスの法則はやはり基本法則であるので, 今まで導出してきた公式はそのまま使える. 例えば,

- ✓ ポアソンの方程式: $\underline{\hspace{2cm}}$ ※(ϵ がスカラ定数の範囲でのみ適用可能)
- ✓ 極板面積 S , 極板間距離 d の平行平板コンデンサーの容量: $\underline{\hspace{2cm}}$
- ✓ 単位体積あたり電場が蓄えるエネルギー: $\underline{\hspace{2cm}}$

➤ 誘電率の異なる界面の両側で \mathbf{E} と \mathbf{D} はそれぞれ, $\underline{\hspace{2cm}}$ 成分, $\underline{\hspace{2cm}}$ 成分が保存される.